山﨑財団ご挨拶

本日ここに、第３２回、公益財団法人山﨑自然科学教育振興会の山﨑賞研究助成金伝達式が盛大に挙行できますことを心より感謝申し上げると共に、研究助成を受けることになった皆さまに心よりお祝い申し上げます。

山﨑自然科学教育振興会は。日本の未来、世界の未来を担う静岡県の青少年の「科学する心と工学する心のもと、継続的で創造的な自由研究を展開する力」を育てることを目的として、昭和５８年の創立以来、自然科学分野や医学・工学・農学・情報科学や応用科学系の研究への助成事業、研究成果への顕彰事業、及び科学教室や講師派遣などの啓発事業、３つの事業を柱として、関係の皆様の適切なご指導とご支援、ご協力をいただきながら、毎年行っております。

我が国は新しい学習指導要領のもと、主体的な学び、対話的な学び、深い学びなど、21 世紀型の資質・能力の育成が益々、大切になっています。長い時間をかけた課題研究・自由研究がとても大切になっています。

さて、研究助成事業としての山﨑賞には本年も県下の小学校、中学校、高等学校から**約６７件**の応募をいただきました。応募いただいた研究計画はいずれも素晴らしい研究計画でしたが、慎重に選考いたしました結果、本年度は児童・生徒の部**２４件**、学校の**部３件**、教員の**部５件**の**合計３２件**に研究助成することに決定いたしました。

科学・技術の研究には様々な研究方略があります。児童生徒が展開できる研究にはどのような内容があるでしょうか。まず大切なことは不思議だな、なぜだろうという科学心が必要です。これを sense of wonder とか habits of mind といわれています。研究対象は、皆さんの身の回りにある事物・現象です。

研究が素晴らしい成果を上げるには、科学的な発見とそれを裏付ける理論の構築と、それらを解き明かす道具(技術)をデザインし、実験観察を繰り返す必要があります。そういう意味では、科学者と工学者と技術者や数学者たちが力を合わせる、ともに汗を流すことつまり、協働が必要であります。

現在、科学技術系において、日本が抱える課題・問題は、日本発の論文数の低下であり、若い研究者が落ち着いて研究ができていないという状況がございます。また、平和な時代の中で、人口が急速に減りつつあるという初めての経験をしています。皆さんとともに課題の解決をしていく必要があります。

ここで、述べたいことは理科系、科学技術系の先生がたが、心から科学や工学が好きで、子どもたちの夢の実現に手をさしのべることに時間をおしまないことが理想です。私たちの身の回りは不思議なことだらけです。課題が蓄積しています。大切なのは、わからないことは何なのかが見えることであり、児童も生徒も先生も一丸となって、科学技術的な探究に没頭できる時間を生み出すことでしょう。

最後に、研究助成を受けるにあたり児童・生徒の研究をこれからご指導いただく先生方、および保護者の皆様、そして、厳正で適切な選考をいただいた本財団選考委員の先生方に心から感謝申しあげるとともに、今後とも子どもたちの主体的な研究を支えていただきますようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

平成三十年六月二十四日

公益財団法人　山﨑自然科学教育振興会代表理事
熊野　善介